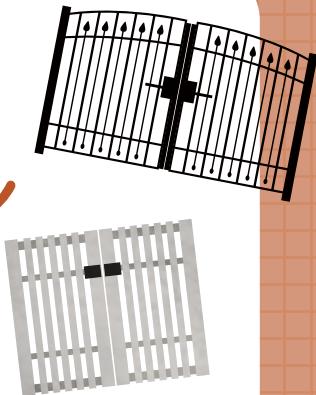




住まいの印象を決める！ “門塀”の種類とスタイル

家（敷地）と環境（道路）を繋ぐ“門塀”は住まいの第一印象を決める大切な要素になります。そこで今回は玄関まわりのエクステリアの中でも、特にこだわりたい“門塀”的種類やスタイルを紹介します。



重厚感のあるクローズドスタイル

プライバシー保護を最重視するクローズドスタイルでは、高いフェンスや壁を設置するケースが多く、目隠しの役割はもちろん、防犯性にも優れ、プライバシーの保護は完璧なスタイルといえます。まさに邸宅にふさわしい重厚な門扉・門柱と長い塀が続く外観は、威風堂々とした美しさを表現することができます。

ただし、高い塀を設けることで陽の当たらない部分が多くなり、風通しも悪くなるケースがあります。そのため敷地が広いことが最も大切な条件となります。逆に、敷地が



狭い場合には適さないスタイルといえるでしょう。高くて長い塀では、玄関の空間や庭が狭くなってしまって、日当りや風通しの悪いデッドスペースとなってしまいます。敷地や住宅の条件を考慮して判断してください。

また、クローズドスタイルでは、費用が高くなることも考慮しておきましょう。数多くの様々な素材を使用するので、工期も長くなります。

人気の高いセミクローズスタイル

セミクローズスタイルは、門塀に程良くなっています。存在感があり、デザイン性も高いため、採用される方が多く主流のスタイルです。門扉やフェンスがあるため、家族のプライバシー保護や防犯にも優れています。

敷地と道路の境界をはっきりさせることができるので、過度に圧迫感がないデザインをおすすめします。例えば、風通しのよいフェンスや、目隠しのための門袖を立てたり、低い植栽を植えるのがよいでしょう。

また、門扉は頑丈な目隠し扉より、シンプルで開放感があるものを選びましょう。門袖は背が高くないお洒落なタイプが好まれています。フェンスは圧迫感のあるブ

ロック塀などよりも、ウッドフェンスやレンガなどの自然素材を使用すれば、やさしさがより伝わります。



開放的なオープンスタイル

建物の表情が外からわかるオープンスタイルは、そこに暮らす家族のライフスタイルを主張します。玄関まわりにミニガーデンを作ったり、シンボルツリーを植えたりすれば、住まいが豊かな表情をもちはじめます。

また、車から降りてすぐに家に入れるなど、暮らしやすく使い勝手が良いことも、このスタイルのメリットとなります。

さらに最近の住宅事情を考慮すると、敷地いっぱいに建物を建てるケースでは、門塀を設置すると圧迫感が出てしまいます。日照・通風にも優れたオープンタイプをおすすめします。コストを抑えられるので、その費用を家に使うこともできます。



迷ったら、経験豊富な
ハウスメーカーに
聞いてみよう！



ママとパパとワタシにやさしい展示場。

山陽新聞岡山住宅展示場